



令和元（2019）年度「不登校を考える学習会」（第1回目）を行いました。

2019.6.28(金) 小郡市人権教育啓発センター

演題：私を大切に 子どもも大切に～アサーティブネスのすすめ～
西日本短期大学保育学科学科長・教授 富永 明子 さん

人と接する時に欠かせないのがコミュニケーションです。不登校になっている子どもへの接し方に迷う保護者は多いものです。また、日常生活で、指摘をする時や頼み事をする時などの際に「どう伝えればよいか」を悩んだり、「あのよう伝えればよかった」と後悔したりといった経験はありませんか？今回の学習会は、アサーティブな表現（アサーティブネス）というコミュニケーションの方法を中心に学習をしました。

○ 対人コミュニケーションの3つのパターン…【例】貸したもの（例えば本）を返してほしい時



【受身的表現】

貸した本を返してほしいけど…。
やっぱり今度でいいや。



嫌われないことや波風をたてないことを重視しがちで、自分の正直な気持ちや希望は表現できない。“気兼ね”することで心理的な負担も伴う。



【攻撃的表現】

貸した本を早く返してよ！



自分の思い通りにしたい気持ちが強く、相手を尊重できない。威圧するような態度だけでなく、相手に罪悪感を抱かせる表現になる場合も・・・



【アサーティブな表現】

この前貸した本のこと、ちょっと気になっているんだけど。今日、返してもらおううれしいな。



自分の気持ちや考えを率直に表現するが、相手のことも尊重する。
自己尊重と他者尊重

富永さんの話より

子どもが不登校になっている時、子どもを傷つけまいと言いたいことを我慢することがあると思いますが、子どもたちと関わっていると「お母さんが自分のことを心配しているのが一番つらかった」という声を多く聞きます。子どもが不登校だと、お母さんは自分が楽しんではいけないと思っていませんか。また、つい攻撃的な表現になることもあります。

安心して言える存在だからこそ攻撃的になるのですが、本当に伝えたいことが逆に伝わらなくなってしまいます。子どもの行動は子ども自身が選択しなければ意味がなく、

「勉強しなさい」という命令・禁止は反発をうみます。反発できる子は健康な子ですが、「(私は) あなたが勉強しないから気になっているんだけどな。そろそろ勉強した方がいいと思うんだけど。」と主語を私にして

自分の気持ちや希望を率直に伝えることが大切です。

参加者のアンケートより

我慢しなくていいんだと思いました。子どもに対しても、我慢している自分・我慢させている自分に

アサーティブな表現を意識して行うことで、考え方や生き方が変わってくるということでした。自分の考えを大切にすることで自尊心が芽生え、「伝えてもいいんだ」という意識は他者を尊重しているからこそ生まれてくる意識ということでした。不登校生への関わりはもとより、生きていく上で・人と接していく上で大切なことを学習することができました。